



## 2023年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年11月14日

上場会社名 株式会社メニコン 上場取引所 東・名  
 コード番号 7780 URL <https://www.menicon.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 田中 英成  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役経営統括本部長 (氏名) 渡邊 基成 (TEL) (052)935-1515 (代表)  
 四半期報告書提出予定日 2022年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	54,129	11.8	6,870	35.8	6,597	30.4	4,263	25.3
2022年3月期第2四半期	48,395	16.6	5,059	12.5	5,060	6.8	3,401	6.4

(注) 包括利益 2023年3月期第2四半期 6,039百万円( 63.6%) 2022年3月期第2四半期 3,692百万円( 5.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	56.23	51.90
2022年3月期第2四半期	44.99	41.48

(注) 当社株式は2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第2四半期	149,561	71,832	46.7
2022年3月期	130,978	67,045	49.7

(参考) 自己資本 2023年3月期第2四半期 69,821百万円 2022年3月期 65,093百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2023年3月期	—	0.00			
2023年3月期(予想)			—	20.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	107,800	7.6	10,400	4.4	10,100	0.4	6,800	89.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2023年3月期2Q	76,447,888株	2022年3月期	76,421,288株
② 期末自己株式数	2023年3月期2Q	596,832株	2022年3月期	645,332株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2023年3月期2Q	75,817,774株	2022年3月期2Q	75,588,816株

- (注) 1. 当社株式は2021年10月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。
2. 期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式数には、「株式給付信託 (従業員持株会処分型)」が保有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、添付資料4ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(追加情報)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、中国等の一部地域を除き、行動制限の緩和が進んだことにより持ち直しの動きが見られました。新型コロナウイルス感染症の経済活動への影響は世界的には限定的であり、欧米を中心に感染症発生前の生活環境に戻りつつあります。しかしながら、国際情勢の不安定化に伴うサプライチェーンの混乱や資源価格の高騰が生じており、多くの地域で政策金利の引き上げが進められるなど、先行きは不透明な状況が続いております。また、国内経済においては円安の進行も重なり、輸入原材料価格の高騰などによる物価の上昇が顕在化するなど、個人の消費動向への影響が懸念される状況となっております。

コンタクトレンズ市場では、海外市場においては1日使い捨てコンタクトレンズを中心としたディスポーザブルコンタクトレンズが拡大基調にある他、オルソケラトロジーレンズ等の視力矯正レンズ関連の需要が堅調に推移しております。国内市場においては安全性の高いシリコンハイドロゲル素材の1日使い捨てコンタクトレンズの需要が高まっている他、ユーザーの高年齢化や在宅時間の増加による近業作業の増加から遠近両用コンタクトレンズの需要が引き続き高まっております。

このような状況の下、当社グループはVision2030スローガン「新しい「みる」を世界に」の実現に向けて、五感を通じて人々が幸せや豊かさを実感できるような商品やサービスの提供を推進する方針のもと、事業活動に取り組んでまいりました。

各事業の状況は、以下のとおりです。

#### [国内ビジョンケア事業]

国内ビジョンケア事業では、1日使い捨てコンタクトレンズのシェア拡大及びメルスブラン会員数の拡大を方針として活動しております。

プロモーション施策といたしましては、当四半期連結会計期間においては「メルスブラン 夏入会キャンペーン」を展開いたしました。当社の強みであるコンタクトレンズの豊富な製品ラインアップを活用し、視力に関する幅広いニーズに対応したご提案を行うことで、メルスブラン会員数の拡大に取り組みました。また、遠近両用コンタクトレンズシリーズ「Lactive（ラクティブ）」につきましても、ブランドイメージ強化のために前連結会計年度に引き続き櫻井翔さんを起用したプロモーション活動を推進いたしました。

商品施策といたしましては、サークルタイプの1日使い捨てコンタクトレンズ「1 DAY FRUTTIE」においてグレーカラー、ヘーゼルカラーの色味をベースにした新色2色を新発売いたしました。サークルタイプのコンタクトレンズはマスク着用時のおしゃれアイテムとして人気が高まっており、商品ラインアップの拡充による1日使い捨てコンタクトレンズのシェア拡大を見込んでおります。

#### [海外ビジョンケア事業]

海外ビジョンケア事業では、ディスポーザブルコンタクトレンズ拡販のための販売チャネルの新規開拓及び関係強化、近視進行抑制事業の基盤強化を方針として活動しております。

欧州では、新型コロナウイルス感染症に関連する規制の緩和が進み、経済活動の再開とともに1日使い捨てコンタクトレンズ及びケア用品の売上高は回復傾向にあります。欧州域内の大手量販店に対して製品導入や新規取引を開始するなど、1日使い捨てコンタクトレンズの販売量の拡大に向けた活動に取り組みました。また、近視進行抑制事業の基盤構築に向けMenicon Bloomのマーケティング活動に注力した他、処方家との関係構築と処方家育成に向けた準備を進めております。

北米では、労働力不足等を背景とする物価上昇の影響はあるものの、サプライチェーンにおける物流費の高騰や納期遅れは改善傾向にあります。サプライチェーンの安定化に伴い、売上高はケア用品のインターネット販売を中心に拡大傾向にあります。また、同地域の量販店に対する1日使い捨てコンタクトレンズの販売を更に拡大すべく新たなチャネル開拓を進めております。

中国では、最大都市である上海の都市封鎖（ロックダウン）により、販売や物流機能の制約を受けましたが、当該環境下で感染防止対策を講じながら営業活動に取り組みました。その結果、主力であるオルソケラトロジーレンズ及びケア用品の販売が引き続き堅調に推移しました。また、中国市場で当社グループ2品目目となるオルソケラトロジーレンズ「Menicon Z Night」の医療機器登録の承認を取得いたしました。市場導入に向けて準備を進めてまいります。

## [その他]

ヘルスケア・ライフケア事業では、五感を通じて人々の健康サポートや喜びを創出する新領域への挑戦を方針として活動しております。

当四半期連結会計期間においては、国内市場ではヘルスケア向けサプリメント「ルナリズム（ラクトフェリン＋葉酸）」のリブランディングを行い、「20代からのトータルフェムケアブランド」として新たに展開いたしました。併せて、フェムテック専門ポップアップストア「byeASU」に出展し、同商品を含む関連サプリメントの販売を行いました。また、海外市場においては食品ビジネスが売上を牽引した他、堆肥化促進システムresQ資材や動物医療ビジネスにおいても海外での販路拡大に取り組みました。

このような取り組みの結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は以下のとおりです。

売上高は、前年同四半期と比較して海外及び国内における経済状況が回復したことに加え、中国向けの販売が堅調に推移したことや、為替の影響により、54,129百万円(前年同四半期比11.8%増)となりました。営業利益は、売上高の増加と販売費及び一般管理費の効率的な使用により6,870百万円(前年同四半期比35.8%増)、経常利益は6,597百万円(前年同四半期比30.4%増)となりました。以上の要因により、親会社株主に帰属する四半期純利益は4,263百万円(前年同四半期比25.3%増)となりました。

セグメントの業績は以下のとおりです。

## ①ビジョンケア事業

ビジョンケア事業の売上高は50,491百万円(前年同四半期比10.9%増)、セグメント利益は9,295百万円(前年同四半期比21.2%増)となりました。詳細は以下のとおりです。

ビジョンケア事業においては前年同四半期と比較して売上高が4,958百万円増加いたしました。主な要因は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復に加え、中国におけるオルソケラトロジーレンズ及びケア用品の販売が堅調に推移したことであり、前年同四半期比で海外売上高が3,541百万円、国内売上高が1,417百万円増加しております。このうちメルスプランは平均顧客単価の高い1日使い捨てコンタクトレンズの会員数が伸長したことにより、売上高が527百万円増加しております。

セグメント利益につきましては、海外ビジョンケア事業の販売が好調に推移したことにより、前年同四半期と比較して1,624百万円増加しております。

## ②その他

その他の事業は、主に食品ビジネスの海外販売が増加し、当第2四半期連結累計期間における売上高は3,637百万円(前年同四半期比27.1%増)となりました。セグメント損失は309百万円(前年同四半期セグメント損失は369百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産の部)

当第2四半期連結会計期間末において総資産は149,561百万円となり、前連結会計年度末に比べ18,583百万円の増加となりました。流動資産は、主に社債の発行により現金及び預金が増加したことから、12,052百万円増加し76,241百万円となりました。また、固定資産は、主にMenicon Malaysiaにおける1日使い捨てコンタクトレンズの製造工場建設に係る設備投資により、6,530百万円増加し73,320百万円となりました。

### (負債及び純資産の部)

負債は主に社債の発行により、前連結会計年度末に比べ13,796百万円増加し77,729百万円となりました。

純資産は主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことで、前連結会計年度末に比べ4,787百万円増加し71,832百万円となりました。

この結果、自己資本比率は46.7%となりました。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ9,928百万円増加し42,539百万円(前連結会計年度比30.4%増加)となりました。

#### ①営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に税金等調整前四半期純利益及び減価償却費の増加により、7,012百万円の収入(前年同四半期は5,299百万円の収入)となりました。

#### ②投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、主にMenicon Malaysiaにおける1日使い捨てコンタクトレンズの製造工場建設に係る設備投資により、8,506百万円の支出(前年同四半期は5,861百万円の支出)となりました。

#### ③財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に社債の発行により、10,986百万円の収入(前年同四半期は3,090百万円の支出)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間までの業績につきましては、国内外における経済状況が回復したことに加え、中国向けの販売が堅調に推移したことや、為替の影響により、前年同四半期比で増収となっております。また、営業利益は、研究開発費等の費用の一部が未使用であったことにより、2023年3月期通期の連結業績予想に対して進捗率が高く推移しました。未使用の費用は第3四半期以降に使用を予定しており、また、為替変動は不確定であり見通しが困難なため、2023年3月期通期の連結業績予想につきましては、2022年5月12日に発表したものから変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	33,046	42,988
受取手形及び売掛金	11,269	11,925
有価証券	—	20
商品及び製品	11,454	12,013
仕掛品	1,304	1,221
原材料及び貯蔵品	3,025	3,369
その他	4,227	4,856
貸倒引当金	△140	△152
流動資産合計	64,188	76,241
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	26,286	27,745
減価償却累計額	△11,804	△12,336
建物及び構築物(純額)	14,481	15,408
機械装置及び運搬具	26,617	27,838
減価償却累計額	△18,142	△18,339
機械装置及び運搬具(純額)	8,475	9,499
工具、器具及び備品	9,609	10,036
減価償却累計額	△7,998	△8,324
工具、器具及び備品(純額)	1,611	1,711
土地	4,983	4,991
リース資産	2,217	2,234
減価償却累計額	△516	△632
リース資産(純額)	1,700	1,601
使用権資産	6,462	7,067
減価償却累計額	△2,227	△2,567
使用権資産(純額)	4,235	4,499
建設仮勘定	13,924	17,748
その他	10	46
減価償却累計額	—	—
その他(純額)	10	46
有形固定資産合計	49,421	55,506
無形固定資産		
のれん	2,748	2,561
特許権	484	402
その他	8,368	8,725
無形固定資産合計	11,601	11,688
投資その他の資産		
投資有価証券	515	465
繰延税金資産	2,499	2,685
その他	2,764	2,976
貸倒引当金	△11	△1
投資その他の資産合計	5,767	6,125
固定資産合計	66,790	73,320
資産合計	130,978	149,561

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,894	5,364
短期借入金	82	67
1年内償還予定の社債	826	826
1年内返済予定の長期借入金	1,891	1,758
リース債務	2,000	1,594
未払金	4,748	4,310
未払法人税等	1,657	2,072
賞与引当金	2,028	1,871
ポイント引当金	14	14
その他	4,542	4,670
流動負債合計	22,688	22,551
固定負債		
社債	2,226	16,813
転換社債型新株予約権付社債	22,902	22,919
長期借入金	7,459	6,613
リース債務	5,049	5,184
長期末払金	1,330	1,400
退職給付に係る負債	705	744
繰延税金負債	995	1,125
資産除去債務	111	112
その他	462	265
固定負債合計	41,244	55,178
負債合計	63,933	77,729
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,462	5,475
資本剰余金	7,249	7,262
利益剰余金	52,302	55,013
自己株式	△1,330	△1,113
株主資本合計	63,684	66,637
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	83	80
為替換算調整勘定	1,325	3,104
その他の包括利益累計額合計	1,409	3,184
新株予約権	1,902	1,960
非支配株主持分	49	50
純資産合計	67,045	71,832
負債純資産合計	130,978	149,561



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
売上高	48,395	54,129
売上原価	22,581	24,896
売上総利益	25,813	29,233
販売費及び一般管理費	20,754	22,363
営業利益	5,059	6,870
営業外収益		
受取利息	6	14
受取配当金	6	7
持分法による投資利益	0	—
為替差益	26	—
助成金収入	26	20
その他	116	150
営業外収益合計	183	192
営業外費用		
支払利息	149	181
社債発行費	—	79
持分法による投資損失	—	11
為替差損	—	172
その他	33	20
営業外費用合計	182	465
経常利益	5,060	6,597
特別利益		
固定資産売却益	1	0
特別利益合計	1	0
特別損失		
固定資産除却損	13	6
その他	6	1
特別損失合計	19	7
税金等調整前四半期純利益	5,043	6,590
法人税、住民税及び事業税	1,703	2,435
法人税等調整額	△59	△109
法人税等合計	1,643	2,326
四半期純利益	3,399	4,264
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,401	4,263

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)
四半期純利益	3,399	4,264
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1	△3
為替換算調整勘定	292	1,746
持分法適用会社に対する持分相当額	△0	31
その他の包括利益合計	293	1,774
四半期包括利益	3,692	6,039
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,694	6,038
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	1

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	5,043	6,590
減価償却費	2,978	3,368
のれん償却額	448	217
受取利息及び受取配当金	△13	△21
支払利息	149	181
為替差損益(△は益)	△116	△114
売上債権の増減額(△は増加)	284	△411
棚卸資産の増減額(△は増加)	△82	△221
仕入債務の増減額(△は減少)	324	431
未払金の増減額(△は減少)	△754	△817
賞与引当金の増減額(△は減少)	△256	△194
その他	△669	△89
小計	7,335	8,917
利息及び配当金の受取額	12	21
利息の支払額	△88	△71
法人税等の支払額	△1,959	△1,854
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,299	7,012
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
無形固定資産の取得による支出	△608	△603
有形固定資産の取得による支出	△5,205	△7,458
有形固定資産の売却による収入	4	3
その他	△52	△446
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,861	△8,506
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△176	△17
長期借入れによる収入	1,190	—
長期借入金の返済による支出	△617	△979
社債の発行による収入	—	14,920
社債の償還による支出	△615	△413
自己株式の取得による支出	△1,189	—
自己株式の売却による収入	701	148
リース債務の返済による支出	△1,072	△1,154
配当金の支払額	△1,321	△1,518
その他	11	1
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,090	10,986
現金及び現金同等物に係る換算差額	△8	435
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,660	9,928
現金及び現金同等物の期首残高	41,120	32,611
現金及び現金同等物の四半期末残高	37,460	42,539

#### (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引)

当社は、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

##### 1. 取引の概要

当社は、2021年9月より「株式給付信託（従業員持株会処分型）」（以下、「本制度」といいます。）を導入しております。

本制度の導入にあたり、当社は、当社を委託者、みずほ信託銀行株式会社を受託者とする「株式給付信託（従業員持株会処分型）契約書」（以下、「本信託契約」といいます。）を締結いたしました（本信託契約に基づいて設定される信託を「本信託」といいます。）。また、みずほ信託銀行株式会社は株式会社日本カストディ銀行との間で、株式会社日本カストディ銀行を再信託受託者として有価証券等の信託財産の管理を再信託する契約を締結しております。

株式会社日本カストディ銀行は、信託E口において、信託設定後5年間にわたり「メニコン社員持株会」（以下、「持株会」といいます。）が購入することが見込まれる数に相当する当社株式を予め一括して取得し、以後、持株会の株式購入に際して当社株式を売却していきます。信託E口による持株会への当社株式の売却を通じて、信託終了時までには、本信託の信託財産内に株式売却益相当額が累積した場合には、かかる金銭を残余財産として、受益者適格要件を充足する持株会加入者（従業員）に分配いたします。

他方、当社は、信託E口が当社株式を取得するための借入に際し保証をするため、当社株価の下落等により、信託終了時において、株式売却損相当額の借入残債がある場合には、保証契約に基づき当社が当該残債を弁済することとなります。

##### 2. 信託に残存する自社の株式

信託に残存する当社株式を、信託における帳簿価額（付随費用の金額を除く。）により、純資産の部に自己株式として計上しております。当該自己株式の帳簿価額及び株式数は、前連結会計年度1,007百万円、225千株、当第2四半期連結会計期間790百万円、176千株であります。

##### 3. 総額法の適用により計上された借入金の帳簿価額

前連結会計年度1,073百万円、当第2四半期連結会計期間926百万円

(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の広がり方や収束見通し時期等を含む仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ビジョンケア事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	45,533	45,533	2,862	48,395
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	45,533	45,533	2,862	48,395
セグメント利益 又は損失(△)	7,671	7,671	△369	7,301

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ヘルスケア・ライフケア事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,671
「その他」の区分の損失(△)	△369
全社費用(注)	△2,241
四半期連結損益計算書の営業利益	5,059

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	ビジョンケア事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	50,491	50,491	3,637	54,129
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—
計	50,491	50,491	3,637	54,129
セグメント利益 又は損失(△)	9,295	9,295	△309	8,986

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、ヘルスケア・ライフケア事業を含んでおります。

## 2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	9,295
「その他」の区分の損失(△)	△309
全社費用(注)	△2,116
四半期連結損益計算書の営業利益	6,870

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。